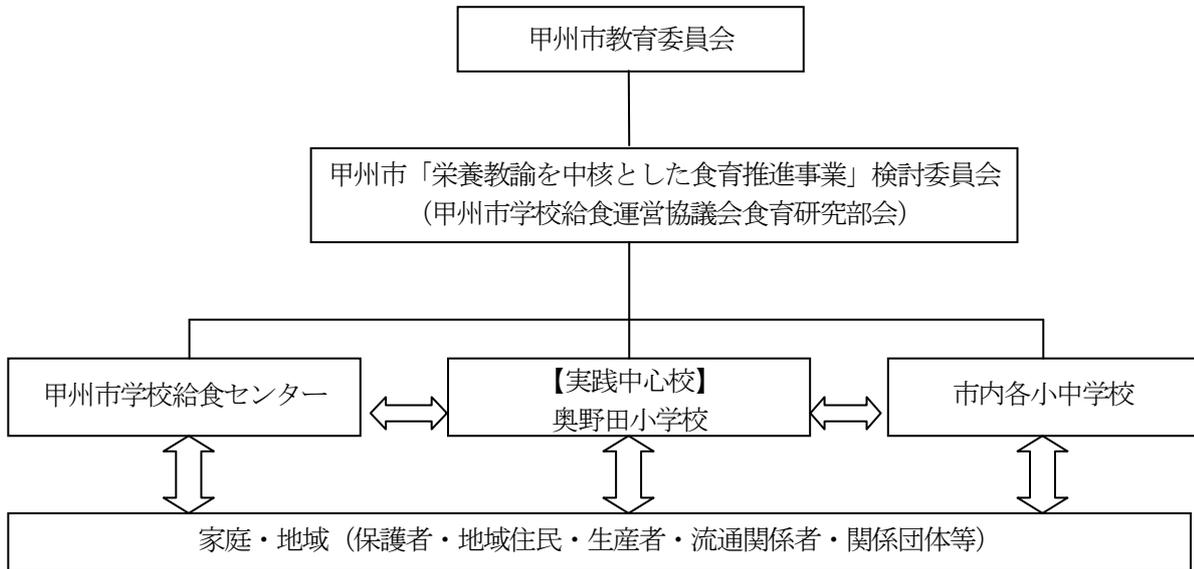


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山梨県
推進地域名	甲州市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 各教科等における食に関する指導を充実させるための取り組み

～実践中心校（奥野田小学校）における取り組み～

- ① 食育への理解を深めるための校内研修  
7月12日 講師：山梨県教育委員会 スポーツ健康課  
指導主事 秋山知子先生
- ② 食に関する指導の全体計画・年間指導計画の作成
- ③ 食に関する指導の授業実践
  - 学級活動などにおける授業実践例
    - 1年：きゅうしょくだいすき（給食はどうやってできるの）
    - 1年：なんでもたべてげんきになろう
    - 2年：やさいを食べよう
    - 3年：カルシウムのはたらきを知ろう
    - 3年：畑のお肉、そのひみつ  
…国語科「すがたをかえる大豆」との関連
    - 4年：よくかんで食べよう  
…国語科「かむことの力」との関連
    - 4年：元気のもとになる朝ごはんを考えよう
    - 5年：お米のよさを知ろう
    - 6年：栄養のバランスを考えて食べよう
    - つくし・すみれ学級：お正月を楽しもう



- 食に関わる体験活動（作物の栽培や調理）
  - 1年：きゅうり・ミニトマト・かぼちゃなどの栽培、ほうとうづくり
  - 2年：ひとり鉢野菜作り、大豆の栽培、とうふづくり
  - 3年：もも博士になろう、大豆の栽培
  - 5年：バケツ稲、落花生の栽培、チャレンジキャンプ
  - 6年：じゃがいもについてもっと知ろう
- つくし・すみれ：野菜を育てよう、とれた野菜で調理しよう
- 児童会活動：さつまいもの栽培
- 保健給食集会「めざせ！おやつ選びの達人」7月7日
- 月別指導資料を活用した指導



じゃがいもについてもっと知ろう



豆腐作り



ほうとうづくり



保健給食集会

- ④ 実践資料集の作成と配布：実践中心校での研究内容を市内小中学校へ紹介し、食育の推進を図る。

## テーマ2 学校給食を「生きた教材」として食に関する指導を充実させるための取り組み

- ① 「給食の時間における食に関する指導の年間指導計画」の作成
- ② 地場産物を取り入れた献立研究・学校給食への活用
  - 献立学習会：月1回
  - 甲州市産の食材の活用例：さくらんぼ・ぶどう・ぶどうジュース  
にじます・まいたけ
- ③ よりおいしく安全な給食を提供するための研究会
  - 7月29日 学校給食調理講習会および試食会の開催



## テーマ3 家庭や地域と連携した食育の取り組み

- ① 食生活アンケートの実施
  - 1回目：6月に奥野田小学校の全児童、家庭を対象に実施
  - 2回目：12月に奥野田小学校の全児童を対象に実施
- ② 給食試食会、学習会等の開催
  - 1年生保護者対象の給食試食会、学習会：6月5日
  - 食育学習会：10月22日
    - 文部科学省：子ども生活習慣づくりのための普及啓発事業  
「早寝早起き朝ごはんキャラバン隊」
    - 紙芝居やクイズで楽しく早寝早起き朝ごはんの大切さを学習することができた。
  - 親子料理教室
    - 6月26日（お好み焼き、ゼリー）4年
    - 10月15日（ホットケーキ）2年
    - 10月30日（こねこねほうとう）1年
    - 11月13日（炊飯器でつくるさつまいもケーキ）5年



- 食育講演会：1月19日  
「子どもの“気”を育てる食育とは」  
～元気・やる気・根気・勇気に向けて～  
講師：大村直己先生（食育コーディネーター）

③食育だより、レシピ集等の発行による情報発信、啓発活動

④甲州市の食育関連行事へ参加協力

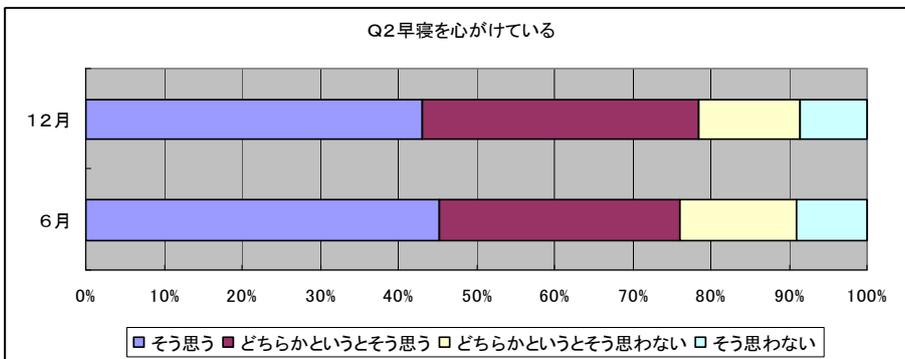
- 食育まつり…各校での食育の取り組みを紹介したパネル展示
- CATVの食育番組



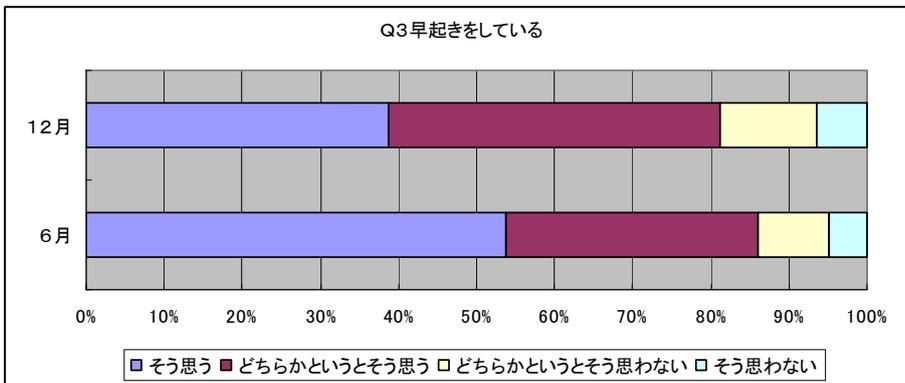
## テーマ1～3に共通する具体的計画

\* アンケート集計により見えてきた傾向

【食生活アンケート 対象：奥野田小学校全児童 実施時期：第1回6月、第2回12月】

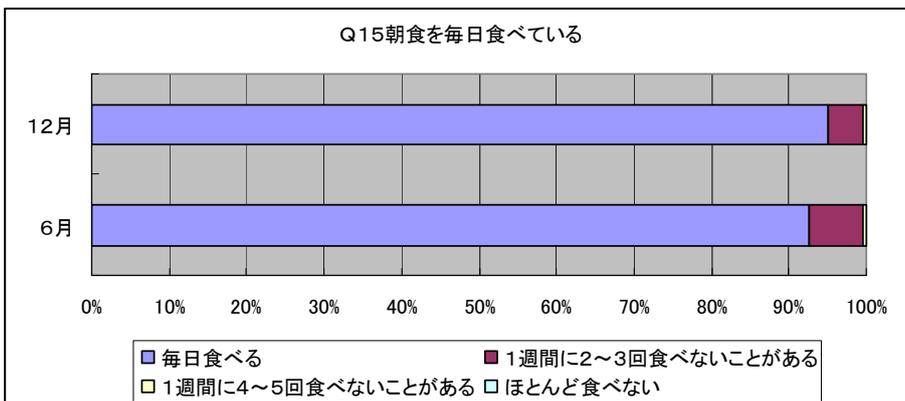


早寝については、「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた児童は6月より増えているが、早起きをしている児童は6月に比べて、12月の方が減っている。調査時期の違いが影響しているとも思われるが、今後も早起きの大切さを指導していきたい。

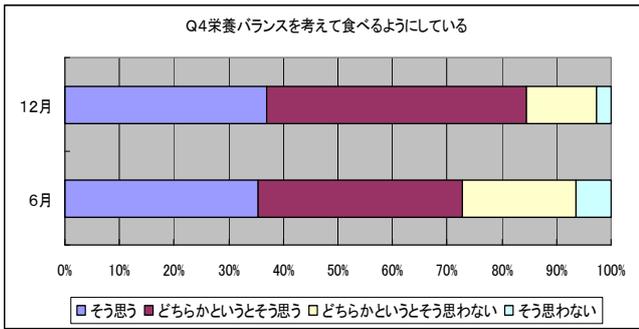


早寝・早起きについては、「そう思う」と答えた児童が低学年に比べると高学年で低く、高学年ほど夜型の生活になっている傾向がある。

朝食については毎日食べている児童は、6月が92.6%、12月が95.2%と増加し、ほとんどの児童が毎日食べてきている。



10月に行った朝食アンケートの結果から、朝食の内容を見ると、おかずがなく「主食だけ」「主食とのみもの」という児童も多く食事内容の充実が課題となっている。

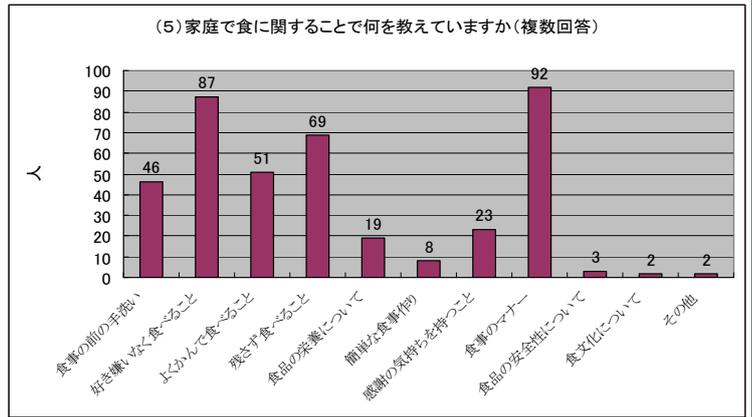


「栄養バランスを考えて食べるようにしている」では、「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた児童が増えてきている。今年度の様々な取り組みの成果があらわれてきたと思われる。食品別に見ると、野菜に比べ、魚や豆類の摂取意欲が低かった。魚や豆・豆製品の良さを見直し、意識を高める取り組みが必要である。

### 【食生活アンケート

対象：奥野田小学校保護者 6月実施】

食品の使用頻度では、海藻類、いも類、魚介類が低かった。児童の調査でも、魚、豆類で意識が低く、親子ともに、日本人の食文化を支えてきた海藻、いも、魚介、豆類への意識を高めていきたい。家庭では「食事のマナー」や「好き嫌い」について教えている保護者が多く、「食文化」「食品の安全性」「簡単な食事作り」についてはあまり教えていない。



## 数字で変化のあった事項について

朝食の摂食状況：「毎日食べる」92.6%（平成21年6月）→95.2%（平成21年10月）

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 「食に関する年間指導計画」を作成し、計画的に、系統的な指導が行われ、学校全体で食育を進めることができた。
- 担任と栄養教諭とがTTを組むことにより専門性を生かした指導ができた。また豊富な資料や教材教具の工夫により学習意欲が高まり、効果的な指導となった。
- 食に関する授業や体験活動を行うことにより、子どもたちが食に関心を持ち、食生活を見つめる機会となった。
- 授業当日、学習内容にそった「食育だより」を家庭に配付したり、親子で行う活動を取り入れたことにより、家庭との連携も図ることができた。
- 食育学習会や親子料理教室等を行うことにより、家庭での食育のきっかけ作りになった。
- 食育だよりやレシピ集を市内小中学生の家庭（2500世帯）へ配付し、家庭への情報発信を行い、食育の大切さを伝えることができた。

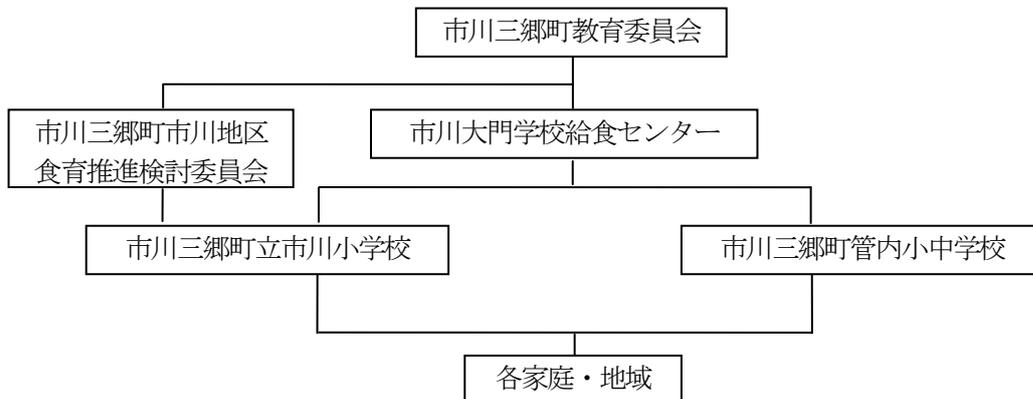
## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 授業により、授業直後は実践意欲が高まるが、それをどのように持続させ定着させていくかが課題である。
- 低学年からの系統的な指導により食への意識は高まっていく。今後も食に関する年間指導計画をもとに、指導を続けていく必要がある。
- 食に関する授業で学んだことを日常生活の中で実践し、習慣化させるためには、家庭との連携協力が不可欠である。食に関する授業を保護者に公開するなど、家庭との連携をさらに深めるための取り組みが必要である。
- 今年度の取り組みにより、保護者の関心が高まってきているが、家庭により食に対する意識にも差が見られる。すべての家庭で子どもたちの心身の健康を考えた食育に取り組んでもらうための働きかけを続けていくことが大切である。
- 実践中心校での実践内容を広め、市内の各学校で「食に関する指導の全体計画・年間指導計画」が作成され、計画的、継続的な食教育が行われるようにしていきたい。

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山梨県
推進地域名	市川三郷町

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

### テーマ1 教育課程における食に関する指導の充実のための取り組み

① 自ら「見つめ、調べ、まとめ、表現する」子ども達の育成をめざし、学級活動や各教科において、栄養教諭と連携した食育指導の充実・実践に取り組んだ。

- ・第1学年 学級活動「たべもののひみつ」：10月実施 研究授業
- ・第4学年 学級活動「地場産物の大塚にんじんのひみつを探ろう」：11月実施 研究授業
- ・第2学年 生活科「わたしとさんぼまち～春～ ～冬～」 「わたしの野菜をつくりたい」
- ・第3学年 社会科「見直そう 私たちの暮らし」
- ・第5学年 家庭科「家族とお茶を楽しもう」「料理って楽しいね！おいしいね！」
- ・第6学年 家庭科「まかせてね！きょうのごはん」など。



1年の授業「たべもののひみつ」



4年の授業「大塚にんじんのひみつを探ろう」



② 外部から講師として、山梨学院短期大学准教授深沢早苗先生を招き料理教室を開催した。

③ 食育推進年間指導計画の実践と検証に取り組んだ。

児童の「生きる力」を培うために、食育指導の根源となる各学年ごとの食に関する指導の年間計画に基づき、実践に取り組み、計画の見直しを行った。

再度、食育と関連できるような各教科、学級活動の内容等も洗い出しを行った。

④ 食農体験(栽培活動)では、第2学年生活科で、ピーマンやきゅうり、なす、落花生、大豆、とうもろこしなど、4年生理科でゴーヤを栽培した。第5学年でバケツ稲を栽培し、食べ物の尊さ、自然のありがたさを感じた。



⑤ 学校に隣接している給食センターへ、1年生が生活科「学校探検」で見学した。調理員さん達の働いている姿にふれることで、残さず食べることや感謝の心も芽生え始めた。

⑥ 食に関する指導に関わる学習会を実施した。校内研究の一環として山梨学院短期大学教授松本晴美先生をお招きし、本校児童の食生活の実態調査結果より考察や今後の指導の方向性などについて、研究を深めた。

## テーマ2

### 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取り組み 家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査

① 食生活や食に関する基本的な生活習慣等を見直すための実態調査を、児童と保護者を対象に実施した。6月に本校独自の調査項目を掲げ実施し、考察し、実践の重要な資料としている。

② 食育に関する資料、研究・実践した内容等について、学校から家庭や地域に向けて、「食育だより」として配布し、理解を深める機会とした。

- ・食育だより1号…食育とは何か、今後の食教育の取り組み、食育の授業風景など
- ・食育だより2号…児童の食の実態調査結果、給食試食会や食育の授業参観の様子など
- ・食育だより3号…保護者の食の実態調査結果、親子料理教室、朝食の効用、調理研修会
- ・食育だより4号…校内研究授業、母親部主催給食試食会、食育の授業風景、お知らせ
- ・食育だより5号…「早ね・早おき・朝ごはん」キャラバン隊、食育の授業風景など



③ 親子で食について興味関心を持ち、コミュニケーションの広がりや家でのお手伝いのきっかけとなるよう、7月に親子料理教室を開催した。また、保護者に学校給食を理解していただくため、児童の給食配膳や食べている様子を参観する試食会を実施した。

- ・「いちかわキッチン」～親子で手軽にできる おやつづくり～  
実習料理…キャベツもち、簡単バナナパイ、ソーダのゼリー



- ・給食試食会の開催

- 6月24日 1年生の保護者を対象に試食会を実施した。
- 10月22日 母親部会主催で全校の希望者を対象に実施した。  
試食後、保護者対象に朝ごはんの大切さや食事内容などについて学習会を開催した。



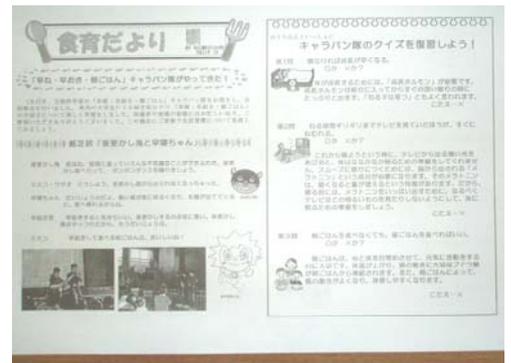
- ・学校給食の献立より料理を選び、カード式の料理集を作成した。家族と一緒に給食の味を家庭でも楽しく調理できるよう作成した。

④ 食に関する授業参観などを行った。

- 6月の日曜学校や7月の授業参観にかむことの大切さについて「めげせかみかみ名人」として実施した。保護者にも実際に児童と同じ食べ物のかみ比べを体験していただいた。



- 1月に文部科学省の「早寝早起き朝ごはん」キャラバン隊を招き、全校集会を実施した。早寝、早起きの大切さ、なぜ朝ごはんを食べるのかなどについて、紙芝居やクイズなどで、児童や保護者で楽しく学習した。



**テーマ3 学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取り組み**

- ① 地場産物を学校給食へ取り入れるため、地教委が中心となり、地元生産者との検討委員会を何回か開催した。その結果、秋頃から学校給食へ地元の野菜を少しずつ導入することができた。



- ② 児童に地場産物の栽培の様子や食べ物の大切さなどを知らせれば、感謝の心や郷土愛が育つであろうと考え実践した。

- 1月に地元農業生産者のかたを招き、大塚にんじんの栽培や「のっぷい」という土や、生産者の思いについて学ぶことができた。
- 2月に食生活改善推進委員のかたに、ほうとうの作り方を授業参観で保護者も一緒に教えていただいた。
- 給食を通して、地域(郷土)・旬を大切に食の指導を栄養教諭が中心になって行った。

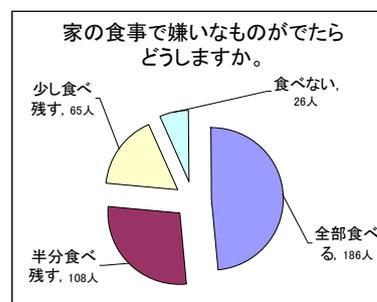
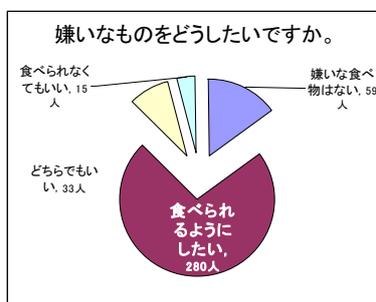
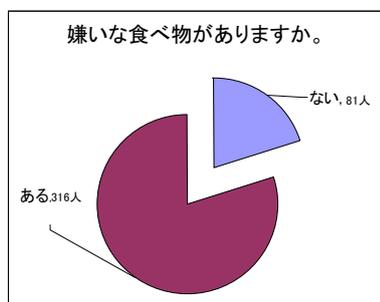


- ③ 学校での食育の取り組みや食に関心を持ってもらうため、年に数回発行する「食育だより」を、地域へ回覧板を通して情報発信を行った。

## テーマ1～3に共通する具体的計画

※実態調査結果より、傾向と課題 「全校児童と保護者を対象にした結果より(7月に実施)」

- ・ 食べ物の好き嫌いがある児童が、とても多い。
- ・ 児童は、学校や家庭で嫌いな食べ物がでた時は、食べる努力や改善しようという意識は高い。
- ・ 朝食を「必ず食べさせる」家庭がほとんどを占めていた。本校は5年前から学力向上に取り組み、「家庭学習」「睡眠」「朝食」の大切さについて実践しているので、定着している。しかし、わずかに朝食について「時々食べなくてもよい」や「考えたことがない」という家庭もあったので、朝食の重要性や食事内容についても考えていきたい。
- ・ 子どもの好き嫌いは、それぞれの家庭の考え方を大きく反映しているのではないかと考えられる、興味ある結果だった。
- ・ 学校給食で8割近い保護者が「好き嫌いはなくなる、どちらかというとなくなると思う」と回答していた。給食への期待の大きさを感じる。学校給食に望んでいることは、食品への知識や食への関心が上位を占めていた。その他、しっかり食べさせること、基本的なマナーなど多岐にわたっていた。これらをふまえ、毎日の給食時間を大切にしながら、食に関する指導を実践していく。



## 数字で変化のあった事項について

地場産物の納入 5品目(平成20年度)→ 11品目(平成21年度)

好き嫌いをしないようにしている 68%(平成21年7月)→ 73%(平成21年12月)

赤・黄・緑の食品がそろった夕食を食べることが多い 82%(平成21年7月)→ 86%(平成21年12月)

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 栽培活動や調理活動等体験活動を取り入れながら、食育活動を推進した。これらの活動を通して子どもたちに少しずつではあるが、食に対する興味や関心がでてきて、食べ物を大切にする心も芽生えつつある。これは、給食の残菜の量にも現れてきており、教職員はもちろん、子どもたちのなかにも食育についての理解が深まってきているのではないかと考えられる。
- 栄養教諭との連携により、より効果的な充実した内容の食育指導の展開ができた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 今後、教育課程の中にどのように食育指導を位置づけていくのか、また効果的な指導の在り方等について研究を深めていくことが課題として考えられる。
- 正しい食生活や食習慣を学習しながらの健康な心と体を育む教育は、家庭や地域の温かい協力が必要である。これからも各種活動を通して、啓培の活動を展開していくことが重要である。
- 生産者との話し合いの場を持ち、学校給食への地場産物導入ができたことは大きな成果である。児童が生産に携わる体験活動ができると、より地域との関わりの食への関心が深まるのではないかと考える。